

## COVID-19 患者へのレムデシビル投与の安全性の評価

福山裕季子<sup>1)</sup>、馬場奈津美<sup>1)</sup>、玉置尚<sup>1)</sup>、入江優美<sup>1)</sup>、見坂恒明<sup>2)</sup>  
兵庫県立丹波医療センター薬剤部<sup>1)</sup>、同内科<sup>2)</sup>

### 【目的】

兵庫県立丹波医療センター(以下当センター)では、新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)患者に対し、SpO<sub>2</sub> ≤ 93% または酸素投与有となった段階で、レムデシビル等の薬剤投与を開始している。今回、レムデシビルの安全性を検証するため有害事象に関する実態を調査した。

### 【方法】

第1波～第3波(2020年3月～2021年2月)の期間に、COVID-19で当センターに入院した患者を対象とし、電子カルテを用いた後方視的コホート研究を行った。対象患者をA群(レムデシビル治療薬群)/B群(レムデシビル以外の治療薬群)/C群(治療薬なし群)として、A群とB群、A群とC群における有害事象の発生割合を比較した(p < 0.05で有意差あり)。有害事象の評価はCTCAEv5.0で行い、評価する検査値は入院期間中の検査値とし、入院期間中の検査値が入院時のみの患者は除外した。

### 【結果】

対象患者は、A群21例、B群24例、C群36例であった。年齢中央値はA群75(56-93)歳/B群76.5(37-94)歳/C群70.5(18-102)歳である。各群(A/B/C)の有害事象例数は、リンパ球数減少(13/6/3)、肝酵素値上昇(8/13/14)、腎機能低下(2/4/1)であった。3群間で比較したところ、B群・C群との比較でA群のみ有意にリンパ球数減少を認めた。肝酵素値上昇・腎機能低下では3群間で統計学的な有意差は認めなかった。なお、腎機能悪化によるレムデシビル投与中止例が1例あった。

### 【結論】

レムデシビル投与の有害事象として有意なリンパ球減少を認めた。一方、肝酵素値・腎機能障害の発生はレムデシビルを使用しない場合と統計学的に有意差はなく、安全性を確認できた。